

山行NO 山行NO. 1826
日時 2019.08.04(日)快晴
山域 金峰山(2599m・深田百名山)
コース 廻り目平発6:30-林道終点7:37-金峯山小屋(小屋はこの表記)9:12-金峰山9:44~10:09-小屋10:32~11:01-林道終点12:06-廻り目平12:53
標高差 上り 廻り目平約1574m~金峰山2599m=約1025m
下り //

参加者 GT、KH、HY、GM=4名

8月3日は6時過ぎに裾野でエルグランドに乘車。この時点で行き先がハッキリしておらず、いつも計画がしっかりしているGTさんにしてはミステリーツアーである。

ただ、猛暑から逃れてどこか避暑地でキャンプして、ゆったりしようということで、後はGTさん任せである。

御殿場、河口湖、中央高速の須玉ICを通過、11時前に奥秩父の廻り目平キャンプ場に到着。

早速、テントとブルーシートでタープを張り、今夜のねぐらを確保。

早めの昼食後は自由時間、さすがに1500mの高地であり、猛暑の静岡とは違い、涼しく心地よい。昼食にビールを飲んだこともあり、睡魔に襲われてテントで昼寝。避暑地での至福の時間であった。



キャンプ場でねぐら確保



昼食後のくつろぎタイム

昼からキャンプ客がどんどん増えて、周りはテントでいっぱいになってきた。

キャンプ客は家族連れや、若者が多く、後で気付くことになるが、彼らは夜12時過ぎまで騒いでいて、19時には就寝した我々は、せっかく避暑で涼しい場所に来たのに、よく眠れない一夜となってしまったのは残念であった。

なお、夕食はKHさんが鍋とご飯の準備をしてくれていて、廻り目平で食べる「真夏の鍋」は非常に美味しかった。気温は長袖・長ズボンで寒いくらい。鍋は丁度良かった。

いつも、食事の準備をしてきてくれるKHさんに感謝、感謝である。



廻り目平キャンプ場



テントが増えてきたキャンプ場



夕食の鍋

8月4日は朝食後、6時過ぎにテントを乾かす意味もあり、テントはそのままにして出発。
テント場で男性2人が専用のパン焼き器で朝食をしていたのを女性陣が物欲しそうに見ていると
ハムカツとチーズの焼きパンを頂いた。
私も昔は朝食に具材を挟んだ焼きパンを作っていたので、キャンプでこれはいいなと思った。
出発時に行き先をGTさんに確認したら、唐沢の滝ということであったが、だいぶ歩いてもその登山口は見当たらなかった。



山形出身の男性 2 人



ハムカツとチーズの焼きパン

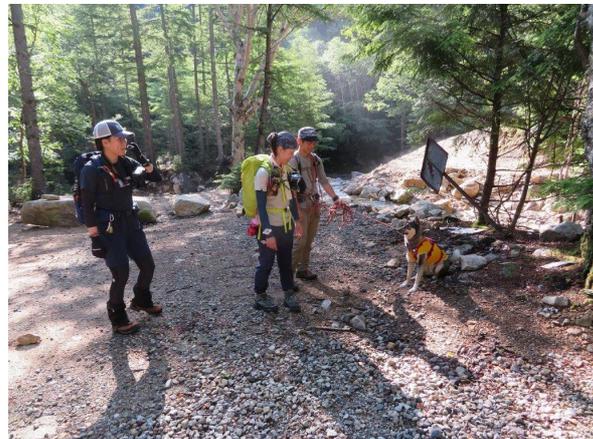
G Tさんが地図を確認したらその登山口はキャンプ場の下ということで、急遽、金峰山を目指すことになった。まさに今回はミステリーツアーで最後の最後まで行き先が決まっていなかったということである

しかし、金峰山は百名山であり、HYさんと私は登ったことがないし、天候もよくラッキーといえらラッキーである。

金峰山を目指し、西股沢の沿いの林道を登っていると、オフロードのオートバイや犬を連れた3人組に出会った。登山するにしても色々な人がいるものだ。

さらに登り、林道終点を過ぎると、金峰山への分岐標識があった。

いよいよ、ここからが本格的な登山道。頂上まで700m以上ありそうだ。



西股沢沿いの林道



金峰山と八丁平の分岐

登山道に入ると金網を張った丸木橋を渡し、すぐに樹林帯の急登を登り始めた。
登りは厳しいが直射日光は樹林帯で遮られ、空気はひんやりとしていて、8月の登山には気持ちがいい。



金網の張ってある丸木橋



樹林帯での休息



瑞牆山（左の岩山）・小川山（右の山）・金峯小屋（真下の屋根）

さらに登っていくと金峯山小屋に到着。(小屋名表記は、「金峯山」注意)
金峯山小屋では休息を取らずに、そこから五丈石方向に登り始めると、瑞牆山を臨む素晴らしい眺望が開けてきた。この眺望をみる事が出来て、今日はラッキーと思った。



金峯山小屋



地下足袋の若い衆



金峰山頂上



五丈岩



地下足袋の若いご夫婦



山形出身の二人（一人は清水在住）

ほどなく、五丈石、金峰山頂上に到着。少し休息を取って、下山開始。



五丈岩前

下りの金峯山小屋で地下足袋のカップルやキャンプ場で焼きパンを頂いた男性2人組と交流した。今回の山行はミステリーツアーであったが、天候もよく百名山の金峰山に登り、素晴らしい景色も楽しむことができたので、とてもいい山行であった。

ただし、最近では登山する山の地図を事前にスマホにダウンロードして、登山ルート記録するようにしているが、今回はその準備ができず、多少残念であった。

その他の記述（GT）

1. キャンプ場は、一泊二日一人900円。退出時支払う。人数チェックなし自己申告。トイレ・水は完備。ビア・ジュース自販機あり。駐車場は道路脇。テン場まで30秒。
2. 交流した若い衆は山形出身。現在一人は東京、一人は清水在住。雪国故、スキーは得意で山スキーをやりたいとのこと。名刺を渡した。
3. 金峰山は、甲斐は「きんぷさん」、信州は「きんぼうさん」と呼ぶ。例のエベレストと同じ。林道終点で抜いた犬連れの人組の女性は、「きんぼうさん」といっていた。信州人？
4. 丸木橋は滑り止めの金網、登山道はきめ細かな手入れ。小屋の山に対するきめ細かな、姿勢を見た。
5. 花は、残りシャクナゲ程度。
6. 犬連れ三人組・単独オジサンを抜かした。若いカップル・若い単独・中年単独に抜かされた。登山者は少ない。ただ、クライマーは多い。

7. キャンプ場は正確ではないが200名くらい宿泊。金峰山登山者は、上記の8名+我々4名のみ。(下山時に4名くらい)。下山時、キャンプ場・車はガラガラ。殆どが、キャンパーと思われる。

8. 小屋上で地下足袋の若い衆+奥様に会った。地下足袋は、最近珍しい。ただ、水に弱く岩にぶつけると指が痛い。その後、小屋で交流。富士見小屋から来た夫婦だった。富士見小屋の昔の殺人事件で話題沸騰。

・・・1983年9月19日午後、山梨の北巨摩郡須玉町増富の奥秩父連峰瑞牆(みずがき)山(高さ2230メートル)の中腹の、富士見平小屋近くの北東300メートルの登山道の下100メートルの雑木林から、女性の腐乱死体が見つかった。

9月3日に1人で登山に行き、行方不明となっていた武蔵村山市のOL今井忍さん(22)と判明、今井は殺害されており、9月23日には富士見平小屋管理人の大柴勉(50)が逮捕された。

大柴勉はレイプしようと今井を100メートル西の山林へと引きずりこみ、下り斜面を悲鳴を上げながら逃げる今井忍さんのシャツを掴んで、手で口を塞いで窒息死させた。

9月4日午前5時30分、大柴勉は死体を遭難死に見せかけるべく発見場所へと運んだ。大柴勉は山梨県山岳連盟の中でもベテランだったが、1982年9月にも女性1人が泊まった際にわいせつ行為に及び、女性は別の山小屋に逃げ込むという騒ぎがあった。今井忍さん失踪の夜は別の客も数人宿泊しており、大柴の供述と他の客の証言の食い違いから、大柴勉が犯人として浮上した・・・(ネットから)

<https://pouchs.jp/K5lgt>

9. 女性軍が小屋で何か購入希望だったが、何もなかったという。管理人も随分、不愛想だったとか。ちなみに、小屋は冬2回宿泊している。2011年は、赤ワインを一本出してくれたと記録にあった。今年の年末は金峰でイイか??!!

<http://susono-reihou.babyblue.jp/2011.01.18kinpu.pdf>

10. 夏は北面の登山道を上るのがベスト。

